田中春夫先生の死を悼んで

思い出を語るには，あまりにも鮮明すぎる．野辺山で最後にお会いしたのは，つい先日のことである．新しく開発された鏡面測定法が実を結ぼうというとき，また再出発した学術会議の会員としてこれからのご活躍を期待していた矢先に，突如お亡くなりになってしまった．

はじめて田中先生にお目にかかったのは私が大学院生のときであったから，もうずいぶん古い話になる．修士論文のデータをいただきに豊川の空電研究所に伺ったときのことである．当時は新幹線がまだ走ってなかったので，精一杯早起きして東京をたってきたが，「遅いなあ，朝から待ってたんだぞ」といきなりやられてしまった．並はずれてせっかちな方とはそのとき知る由もなかった私は，大変びっくりした．当時すでに空電研究所の教授を務められ，TOYOKAWA の田中として世界的にも名声が高かったし，頭髪がやや薄かったことも加わって，学生の私には大先生とうつった．事実，その通り電波天文の大家であることに違いはなかったが，あとになって思うとまだ 30 後半になられたばかりの若手のバリバリであった．それにしても，陽気で気どるところがなく，またいい難いこともづけづけと仰しゃる先生だなあというのが，はじめてお目にかかったときの印象であった．それ以来お亡くなりになるまで，電波天文の先輩として多くのご教示を下さったが，先生のご叱正や直言にはつねに研究に対する情熱と人に対する深い思いやりがこめられていた．戦略やかけ引きをあまり好まれず，いつも真正面から物事にとり組んでおられたが，先生の考え方や行動には，いつも学問・研究を発展させることが根底にあって，すがすがしかった．決断はおそろしく迅速であったが，それでいて全体をよく見通しておられた．

電波天文に残された功績は数えあげればきりがないが，なかでも空電研究所時代になされた太陽電波のすばらしい観測的研究と，のちに東京天文台に移って宇宙電波の 45m 鏡と干渉計実現の原動力となられたことは，偉大な業績としていつまでも残るであろう．空電研究所では，早くから世界に先駆けてマイクロ波帯の格子型干渉計を創案・建設し，太陽電波を高い分解能で観測する道を拓き，のちに拡張して2次元干渉計として完成された．独創的な観測装置が乏しいわが国の天文学のなかで，ひときわ光り輝く業績である．

空電研究所から東京天文台へ移られてからは，宇宙電波観測装置の建設一筋に全力投球された．装置の技術的問題のほかにも，難問がつぎつぎに降りかかってきて，ずいぶん神経をすり減らされたが，持ち前の決断力で事の解決に当らされた．着工の時期が迫ってなお地元との話し合いが暗礁にのりあげたときには，さすがにまいっておられた．光田さん，太田さん（当時の東京天文台事務長，業務主任）と一緒に，しばしば私の官舎に飛び込んできてヤケ酒に憂さを晴らしておられた．酒の勢いで起る口論にハラハラしたが，翌日には三人ともケロリとして仕事に当る不思議なトリオであった．

東京天文台を退官されてからは，東洋大学で電気の講義を担当されるかたわら，屋上に電波望遠鏡を作って鏡面測定法の開発に取組んでおられた．ご自慢のアンテナが完成したのに野辺山の連中は誰もみにこないと大そうご不満のようであった．やや遅れて伺ったとき，みずからアンテナにかけ昇ってとてもうれしそうに説明して下さった．

太陽電波の将来については，いつも気にかけて励ましていただいた．行動力が乏しい私を，おそらく歯がゆい思いをしてみておられたのではなかろうか．フレアの電波写真を撮るヘリオグラフは，われわれ太陽電波の研究者とともに，先生の悲願でもあった．今進めているヘリオグラフ計画の原形は，何年か前に先生が提案されたものである．

最後の最後まで研究と後輩の指導に全力を尽くし，天国からお迎えが来ないうちに急いで逝ってしまわれた．せめてこれからはゆっくり休んで下さい．（甲斐敬造）

悔いのない道を歩んだ科学者——田中さん

思いがけず田中春夫さんが亡くなった．何ということだろう．宇宙研は田中さんには永年その観測の内容，方針についていつも歯切れの良い議論を聞かせて戴くことでお世話になってきたものだった．この3月までは運営協議員会議の副議長をつとめて下さっていた．またこれからは学術会議の場でもわれわれの代弁者としてのお働きも期待していたところだった．何とも残念である．

こういったいわば公式のおつきあいの他に，田中さんとはかなり古くから御縁があった．追憶にふける事で御冥福を祈りたい．私の事になって恐縮だが，実は私は終戦後間もなく，阪大，後に大阪市大で手づくりの電波望遠鏡で太陽電波の観測をしていたことがある．何もない頃で，無知な事もあり色々苦労もしたが，面白くもあった．その頃，小塩さん，高倉さん達とアンテナを地面にたてよこに（5行5列として考えたが）広く並べて干渉させるという考えをもった事がある．大阪市郊外私市（キサイチ）にある市大の植物園を使おうかというところまでいったが，予算はないし，突飛な考えのような気もして，また何よりも宇宙線の研究の方が活発に忙しくなってきたこともあって，私は太陽電波をやめてしまった．

丁度その頃，実はれっきとした電波干渉計という考えがあって，空電研で大きな干渉計が作られるという話を聞いたのが田中さんのお名前を知ったはじめだったと思